校長室から　平成３０年６月２８日

培われてきた習慣や文化

平成３０年度が始まって，３ヶ月が経過しようとしています。４月の始業式から，対面式あり，市中総体あり，そして１年生にとっては，初めての考査があり，慌ただしく月日が過ぎていくような感じですね。今は，合唱コンクールに向けて，朝から皆さんの美しい歌声が響いています。

今，世間では，日本チームの大活躍もあり，サッカーのワールドカップの話題で持ちきりです。そんな中，注目されているのが，日本人のサポーターのマナーや行動です。試合が終わった後にサポーターがスタジアムのゴミを回収するという行為が大きなニュースになっています。このようなすばらしい行動は，今回が初めてではなく，日本がこの大会に初めて出場した１９９８年のフランス大会からずっと継続されているものです。ワールドカップの大会だけではなく，様々な国際大会，国内のリーグ戦等でも行われていますし，他のスポーツや，様々なイベントでも見られます。先日，日本と対戦したセネガルも日本に習って，試合終了後にサポーターが清掃活動を行い，さらに注目されるようになりました。

東日本大震災や阪神大震災で私たちの生活が苦境に陥ったときも，やはり世界中が注目した事がありました。例えばインドのビジネスラインでは，「日本人は，地震で動揺する外国人を机の下にもぐらせ，避難所へ手際よく誘導してくれた。」中国の環球時報は「数百人が広場に避難したが，男性は女性を助けていた。３時間後に広場から人がいなくなったとき，ゴミひとつ落ちていなかった。日本人の冷静さに世界が感慨を覚えている。」ニューヨーク・タイムスは「被災しても日本社会は整然としていて秩序に乱れがない。日本人の忍耐力と回復力は尊い。」等と紹介されました。

日本でも有名になったハーバード大学のマイケル・サンデル教授は震災時の様子を次のように記しています。「日本では，人々が我慢強く，店の前に何時間も整然と静かに並んでいる。阪神大震災時，繁華街で店という店のガラスが割れ，商品が手の届くところに見えているのに，誰もそれを盗もうとしないし，救援物資を待つ列が長くても奪い合いすら起きない。このような国は日本だけです。」

サポーターが清掃する行為や，災害があってもほとんどの人が整然として行動できる事，群衆が徒党を組んで略奪行為を起こさない事等は，短期間で培われたものではなく，私たちの国が大切にしてきた道徳心や倫理感，それを継承していく中で育ってきたものだと思います。

ご家庭での子育てやその中で継承されてきた文化，地域での生活，社会全体の道徳心，学校での教育活動等が日々繰り返される中で，育ってきたものでしょう。皆さんが学校で行っているあいさつ，決められた時間の中での活動，学級や学年の集団での活動，日々の給食の準備や後片付け，清掃活動，ボランティア活動などを当たり前のようにできる事が，気が付いてみると習慣となり，文化になっていくのかもしれません。

皆さんが合唱コンクールに向けて，朝から一生懸命に練習し，すばらしい歌声を響かせている事もここ数年で定着したものではなく，ずっと長い期間，長町中で継承され，やがて「合唱の長町」と形容されるようになったものだと思います。このような日本中での日々の営みが，世界で賞賛され，尊敬される行動に結びついているとすると，それはとてもすばらしい事だと思います。